

知つてゐるお魚や貝類の名を黒板に書いて置いて。お魚は水族館の時の様の中に綿等を入れて両面を作り、蝦は折紙で折るのを畫用紙で折つて彩色した。貝等は粘土を用ゐた。

鳩時計 ペニヤ板に可愛いらしい鳩時計の輪廓を子供に描いて貰つて大人が鋸ミシンで切つてやつた。松の實をフンドクにしたのは面白い思付きであつた。全體を茶色に彩色して、白の繪具で時間や、時計の針を書く。こんな仕事は皆子供にして貰ふ。

植木鉢カバー、客間の出窓にベコニヤ等の鉢を置くにしても、鉢をむき出しではこいふのでカバーが計畫された。四面の繪は子供に描かせる。彩色して輪廓を焼き繪にする。上にニスを塗つた。四面を太絲で組み合せたり底を入

唱歌遊戯

第四週

唱歌 三回

れたりする事は大人がした。

第七週

鳩時計つゞき

植木鉢カバーつゞき

カーテン、テーブル掛け、クッション、何れも金巾又は天竺の布にクレヨンで繪を描かせた。普通のクレヨンは、色は鮮やかで強烈であるが、變色したり、クレヨンが剝落ちたりするし、ユウゼンクレヨンと言ふのは、一度顯してアイロンをかけるミ、長い間變色はしないが、色合が地味で子供にはさうかと思ふし、兩方の短所を補ふ良い染料が出てくれるミと思ふ。

兄弟雀(井上武士曲集)

最初の音が低くて少し聲が出しにくい。練習によつてよ

く歌へる様になる。

遊戯 五回

運動會には汽車ポッポ、ひよこ、兄弟雀の三つをする事に定める。

兄弟雀(記事参照)

三人一組で脊の高い順に並ぶ。これは最初から何處でも自由な方向に取扱ふ。三人宛になるのは六ヶ敷い様だけれぎ、AちゃんBちゃんCちゃんの三人はいつでも同じ組云ふ様に、初めから仲間を定めていつもその通りに練習する。大變都合よく出来る。兄弟の雀が、それぐ兄弟さん雀の後を探して飛んで行く所等は殊に嬉しさう。遊戯はいつも圓形で同じ振りをするものだ。きめてしまはないで、運動會にも、ひよこの様に自由表現を主としたもの、兄弟雀の様に自由な方向に進ませるものを取り入れて見た。但し自由な方向にばらばらになつた場合、それが終つた時には合圖によつてすぐに元の圓形に歸れる様に練習する事が必要。運動會當日はグラウンドに線を引くからその上に乗る様にさせる。自由な體形は最後

にするさよい。

第五週

唱歌 一回

お月様さあそぼ(童謡唱歌名曲全集)

お月様さかくれんぼして遊ぶ子供の様子がよく表はれてる。て可愛らしい歌だ。歌ひ易い。

遊戯 五回

お月様さあそぼ(土川五郎氏振)

運動會の練習

年少組と同じ様な注意が必要。

昨年一度運動會の経験もあるこゝまで、練習の時も年少組の間に入つて世話をしてもらふ。

汽車ポッポ兄弟雀は二回宛、ひよこは十回(一曲一回)して(やはり十分以内にする様に)。

兎ミ龜の競争

一、兎組ミ龜組ミに分けて普通のリレーをする。兎は耳のついた鉢巻をし、龜は脊中に龜の甲を(ボール紙で作る)つける。

二、もう一つの方法として、兎組と龜組とそれ／＼圓形を作り、各自の圓周を一人づゝ兎は兩足を揃へてびん／＼跳ね、龜は四つ這ひに這ひながら競争する。一人が圓を一周するに隣りの人の肩をたゞいて代る。濟んだ者はしやがんで待つに云ふ様にするに大變興味がある。

第六週

運動會練習

豫行演習

運動會

年少組と同様

第七週

唱歌 一回

かけっこ(をさなごのうた)

遊戯 一回

今まで運動會、運動會に云つて子供たちの氣持も落付かない。濟んでほつと一息に云ふところ。靜かなものを選

んであつさりすること。

第八週

唱歌 三回

猿蟹合戦

物語り風の歌で相當に長いから、歌詞を黑板に書いて暫く消さないでおく。三回位に分けて歌ふ。

飛行機

輕快に歌ふ様に。

明治節の歌

明治天皇の御事を話した後でも先生が歌つてきかせる。明治節の式場へは年長組だけ出るこゝになつてゐるので、子供たちの知らない歌でも靜肅にきく事が出来る様にした。

遊戯 二回

猿蟹合戦(記事参照)

猿蟹合戦の遊戯をしませうと面白くお話をしておいて、何になりたいか希望をきいた上、めい／＼にお猿、親蟹、子蟹、柿の芽、臼、栗、蜂の簡單なお面を作らせる。

番簡單なのは畫用紙に描いて切りぬき紙テープをつけたもの、又はボール紙を切りぬいてゴムテープをつけるかする。お面が出来上るまで大喜び。僕は白になる私は芽になりたい等々それ々お面をかぶつて早速遊戯にまよひかかる。七人で一組。他の者はその間は見てゐて歌を歌ふ。

そうして交代する。さうも進んでお猿のなり手があまりないので、これは元氣な子供にたのんで、代り／＼にしてもらふ事にする。子供たちはお面をかぶつただけで、もう本當に蟹になりきり白になりきつて愉快にするころに、今までの遊戯と違つた樂しさ、嬉しさを感じる。演出遊戯と云つても見せるためのものでなく、子供たちはどこまでもして樂しむのである。

飛行機(記事参照)

今回文部省の尋常一年の體操要目に加へられたものである。戸倉先生に伺つたところ幼稚園でも決して差支へないとの事。全體を通じて軽いランニングステップで、實に氣持よく出来る。

お互にプロベラー(兩手)がふれ合ふまで飛行機が墜落する

こみを話し、墜落しない様に上手に舵をこる様にする。一層面白い。手のふれた者は圓の中央に出て来て、坐つて相手してゐるこみ。幾度も繰り返す中に誰れが降りまで落ちないで残るか?

兄弟雀 戸倉ヘル氏振付
井上武士氏曲

準備 三人つゝ組み自由な場所に位置をこる。

前奏

三人前後に並び、兩手を左右にひろげ羽の如く上下に動かし乍ら曲に合はせて前進する。最後の音で兩足揃へてこまる。十一歩進み、十二歩目の足を揃へる。

コーエダ

三人の中先頭は手を腰に、後の二人は前の者の肩に軽く兩手をのせ、三人共そろつて右斜上を見乍ら左足を一步前に出す、體重は前の方にかゝる。

ニーイ

前のまゝの姿勢にて、三人揃つて左斜上を見、右足を一步前に出す。

コーエダ

前と同じ。左足を一步前、右斜上を見る。

ニ

前と同じ。右足一步前、左斜上をみる。

キョウダイ

手は前と同じにて、左足を一步前に出すと同時に先頭は右側から後をふりむき、後の二人の顔をみる。

後の二人はやはり右側からのぞき込む様に前の者の顔をみる。これが同時に行はれる。

スズメガ

前と同じで、右足を一步前に出すと同時に左側から前の者、後の者を見合ふ。

サアーン

キョウダイの時と同じ。

バ

スズメガと同じ

ニイサンスズメハオコメズキ

先頭は自由な場所にスキップで喜んで行く。後の二

人は先頭を見送り乍らその場にしゃがみ拍手してゐる。

ナカノスズメハコノミズキ

中の者が先頭の喜んで行つた所にスキップで喜んで行き、先頭の後にしゃがむ、その時残された一番後の者、先頭はしゃがむで拍手してゐる。

オトンボスズメハムシガスキ

残された最後の者が前の二人の行つたところへスキップで行き、前の二人はしゃがむだまゝ拍手してこれを迎へる。

ゲマツテ

先頭だけ両手を左右に羽の如くのばして元氣よく立つ。

サンバガ

中の者が羽をのばして立つ、先頭は前に立つたまゝ、手もそのまゝ。

ナラン

前の二人は立つたまゝ最後の一人が手を横にのばし

て立つ

ダ

三人揃つて右足の爪先だけ一步後につけ、両手を斜後にのばす。

後奏

前奏と同じ。

猿蟹合戦

準備、猿、大蟹、小蟹、栗、蜂、臼、芽等豫めきめておく、一列に横に並んでゐる。

一、ムカシムカシソノムカシ、カニガオサルニダマサレテ、サルノヒロツタカキノタネ、モツテカヘツテウエマシタ

横にならんだまゝ元氣にうたをうたふ。

二、ハヤクメヲダセカキノタネ

芽になつた者が前に出てしやがみ、両手で芽の形を作る、大蟹になつた者は芽の方に目をくばり、相手しながら芽のまはりを廻る。

ダサヌトハサミデハサミキル

止つて、右手で鋏を作り軽くなつて切る様子をする。

ハヤクキニナレカキノメモヨ

前と同じに芽のまはりを拍手しながらまはる。

ナラヌトハサミデハサミキル

やはり同じ指で鋏を作り切る様子をする。他の者は一列に自分の位置に並むだまゝ合唱隊としてうたつてゐる

三、ドウダカニサンアノカキハ

猿が前に出て来る。他の者は自分の位置にかへる。

猿は右手にて右上の柿の枝をさす、次に左手にて左上の枝をさす。猿が出て来るに同時に蟹が列の前に猿に向ひ合ひの位置に出て来て猿の動作を見守る。

ミテサヘホガオチソウダ

猿は両手で頬をおさへて顔を左右にうごかす、蟹はこれを見てゐる。

サアサアトツテアゲヨウカ

猿は蟹をおいたまゝスキップで稍々離れたところへ飛んで行く。

オイシイオイシイオイシイナ

猿は夢中になつて柿をたべる様子を、蟹はそれをみてゐる。

四、ソナニヒトリデタベナイデ

蟹は前の位置にしやがむだま、猿に向つて右手で招く様子を、

ココヘモヒトツクダサイナ

蟹は先づ右手を掌を上にして差し出し、次に左手をさし出し、次に両手を揃へて上にあげ同時に頭を下げる。

オマヘノヤウナヨハムシハ、カキニウタレテシヌガコ

イ

蟹は横ばひに猿のミころまで匍つてゆく、猿は蟹を目かけて柿をぶつける様子を、二人共すぐ元の位置に戻る。

五、モシモシカニサンコガニサンナンデソナニナイテ

井ル

小蟹が前に出て来てしやがみ、泣いてゐる、するミ

他の全部(猿も大蟹も)が手をつないで小蟹のまはりをこりまく。

六、カナシイコトニカアサンガカキニウタレテシニマシ

タ

小蟹は立つて皆の者に向ひ話す爲に涙をふく様子を、他の者は周囲にかこむだま、靜かにきいてゐる。

七、ヨシヨシナクナコガニサン

小蟹は又しやがみ泣きつゞける、周囲の者は皆小蟹の傍によつて頭をなでてやる。

ソナサルメハヒトウチニ

小蟹しやがむでゐる、周囲の者は手をこり後にさがる。

コノハチ

皆右足で強く床を一つたゞく同時に右手を握つて強く下にのばす。

コノクリ

前と同じ動作を左に行ふ。

コノウスガ

握つた兩手を強く下にのばすこしよに腰を半分程
かゞめすぐ又のばす。

カタキヲウツテアゲマセウ

各自、自分のまはりを拍手し乍らまはる。皆圓を解
いて前の位置に戻る。

八、ズドントトビツククリデッパウ

一列に竝んだまゝ前に四歩さぶ、兩足をそろへ、元
氣よくさび出す。

チクリトツキサスハチノヤリ

兩手でやりを持つた様子をし、チクリチクリみつ
きさしながら前にすゝむ

アハテニゲダスカドケチデ

大急ぎで後向きになり自分の元ゐた位置にスキップ
で歸る。

トウトウカタキヲウチマシタ

拍手しながら自分の周圍をまはり最後に萬歳ミ手を
上にあげる。

ヒコーキ

準備 一列圓形を作る

、ヒコウキヒコウキラララララララ

圓周に沿つてすゝむ、兩手をひろげ、翼にして元氣
よく進む。翼ははじめは圓の中心に傾け、次は外側
の方に傾けながらすゝむ。

アタマノマウヘオミヤノマウヘ

圓の中心を向け、すぐに左廻りで自分の周圍を一廻
りする。翼はひろげたまゝ、次にすぐ右廻りで一廻
りする。

ドコカヘイツタ

圓の中心を向き、足ぶみをし乍ら元氣よく拍手する。

二、ヒコウキヒコウキラララララララ

一番さ同じ。

ムラカラマチヘ

圓心に向つて宙返りしながら突進する。

マチカラクモヘ

後すざりに宙返りし乍ら元の位置に戻る。

談話

第四週

富士山の話

こゝでは是非富士山の話をしなければならぬ云ふわけでは無いが、四季を通じてこの頃が一番晴れの日が多く、よい機会と思はれる。何かキツカケがある時なら猶よい。

例へば誰れか富士山のこゝを云ひ出すか、又はよく撮れた写真をか繪があつて、衝立にでも貼つておいて二三日の後さかいふ場合。

元寇

わが國威を輝した外國との戦であるから、勇ましく、話してきかせる。元の國云つても、それが今この國であるかといふことは説明する必要はない。敵は元の名で終始すればいい。日本人の武勇や、神風については、力を入れて話しておいた方がいゝ。

一番と同じ。

犬と雀

これを読んだ時に、犬と友達になつた雀が犬の爲に大そう盡力する。利害を超えて徹底的に犬を助けるのに心を惹かれて、犬が又、いろ／＼の目に遇ふ筋も面白かつたので、こゝへ選んだ。

第八週

天狗と平助

内容は、日本昔話の中にある誰も知つてゐる話である。第五週の雨漏りと同じく、滑稽昔話で、可笑し味の溢れてゐるのが極上のいのちであらう。さうかする馬鹿聲の話のように可笑し味はあつても、いかにも品が悪くて用ひられないものが多いが、その中では内容が無難である。さすがに菊池寛氏が多くの昔話の中から童話讀本の中に採録された所以のものであり、又氏の筆のあらはし方は、吾々の學